学校番号	J3025

令和５年度 【技術・家庭】科

学年	1	週授業コマ数	1	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	○
使用教科書	技術・家庭　家庭分野(教育図書)						
副教材等	ハンドノート家庭分野(正進社)						

1　担当者からのメッセージ(学習方法等)

授業で考える場面では自分の生活と照らし合わせ、自分のこととして進んで考えてみましょう。 また、積極的に経験や考えを発表し、お互いの考えを共有し深めていきましょう。実習での作業では、毎回の授業の課題を丁寧に進めていくことを目標としましょう。 授業で習った知識や技能を、日常生活の中で積極的に実践してみましょう。一 人でやってできるようになることが、最終目標です。

2　学習の到達目標

(1)家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2)家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
(3)自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の 自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などにつ いて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策 を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的 に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向け て、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	家族・家庭や地域との関わり	家族の一員としてできることや、家族関係をより良くする方法を考える。家庭生活と地域の関わりを知る。	a:家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働についての基礎的な理解。 家族関係、家庭生活と地域との関わりについての基礎的な理解。 b:家族・家庭や地域における生活の中から家族・家庭生活について問題を見いだし，課題をもって考え、解決する力。 c:家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。	・テスト ・プリント等提出物	・実習での理解度 ・課題の完成度	・実習へ取り組む姿勢 ・授業への意欲、関心 ・プリント等の提物物への記入状況
	幼児の生活と家族	幼児の体と心の発達、生活習慣の身に付け方、生活の特徴、遊びと発達のかかわりを知る。幼児の発達を支える大人の役割を考える。	a:赤ちゃんの人形を使いおむつ替えや抱き方など実践できる。 幼児の発達と生活、幼児の遊びの意義についての基礎的な理解 。幼児や高齢者との関わり方についての基礎的な理解と技能。 b:幼児の身体の特徴や発達の仕方、遊びなどについて理解。 家族・家庭や地域における生活の中から家族・家庭生活について問題を見いだし、課題をもって考え、解決する力。 c:家庭生活を支える一員として生活をよりよくしよう、地域の人々と関わり、協働しようとする態度。			
2	衣生活	衣服の働きを知る。目的に合わせて自分らしく着る。衣服の性質と手入れ。洗濯をしてみよう。	a:衣服と社会生活との関わり、衣服の選択と着用、計画的な活用と手入れについての基礎的な理解と技能。 b:家族・家庭や地域における生活の中から衣生活について問題を見いだし、課題をもって考え、解決する力。 c:衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			

3	衣生活	布を使って作ってみよう。	a:布を用いた製作についての基礎的な理解と技能。 b:家族・家庭や地域における生活の中から衣生活について問題を見いだし、課題をもって考え、解決する力。 c:衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度